

## Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.65

(2014年2月刊行)

### Does Infrastructure Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country

Keitaro Aoyagi, Yasuyuki Sawada, and Masahiro Shoji

Research Project: [スリランカにおける灌漑インフラの貧困削減効果](#)

#### ■付加価値

これまでソーシャルキャピタル（社会関係資本）は広い注目を集めてきた一方で、その蓄積のメカニズムに関する研究は数少ない。本論文では、インフラ事業を通じてソーシャルキャピタルの最も重要な側面である「他人への信頼」がどのように変化するか、「習慣形成仮説」と「繰り返しゲーム仮説」の二つの仮説の妥当性という側面から分析を行うものである。「習慣形成仮説」とは、例えば灌漑インフラを例にとった場合、灌漑の維持管理、水資源の分配や災害への対応などを通じて人々の協力行動が習慣化することにより、他人に対する信頼行動を促進するという仮説である。これに対し、「繰り返しゲーム仮説」は、同様の協力行動の習慣形成の過程で人と人との交渉機会が増すことで協力行動を取るインセンティブが高まり、協力行動が増すと考える。分析結果は、「他人への信頼」で測られるソーシャルキャピタルが、「習慣形成」を通じて蓄積されることを示している。

なお、これまでインフラ事業による貧困削減効果、あるいは所得・消費の平準化による一時的貧困の緩和についても、そのプロセスは十分明らかにされているとは言えない。本論文は、インフラ事業がソーシャルキャピタルの蓄積を通じて人々の社会・経済的指標を改善するという道筋を示唆するものである。

#### ■リサーチ・デザイン

本論文では、「他人への信頼」を題材に、その決定要因を探るため、インフラストラクチャーが社会関係資本に与える影響について、「習慣形成仮説」と「繰り返しゲーム仮説」の二つの仮説の妥当性という側面から分析を行う。筆者は南部スリランカの灌漑プロジェクト地域において、開拓地がくじによって無作為に分配されたことを自然実験として用い、被験者内設計（within-subject design）のトラストゲームというフィールド実験によって把握された信頼感データと結合することで分析を行った。

#### ■主な結論（政策的含意を含む）

分析の結果からは第一に、同じ灌漑システムの内部に居住する者のうち、より距離の近い区域に住む者に対してより高い信頼を示した。人々の相互間の距離が信頼の度合いと関係するということは、つまり「他人への信頼」とは、自分以外の他人に対する一般的信頼（general trust）というよりも、個別的信頼（particularistic trust）としての要素が強いことを示唆している。

次に、この個別的信頼であらわされるソーシャルキャピタルについて、同じ灌漑分配水路内における信頼感については、各農民の灌漑アクセス年数が有意に関連しているものの、農民間の社会的関係の近接さ（お金の貸し借りの有無、同じ葬式集団への所属、お互いの電話番号を知っているかなど）は統計的に有意な関係を示さなかった。このことは、個別的信頼であらわされるソーシャルキャピタルについても、繰り返しゲーム的なメカニズムを通じてではなく、灌漑インフラへのアクセスによる協力行動の習慣形成を通じて蓄積されることを示している。